

共済組合確認欄		

随時弁済申出書

地方職員共済組合広島県支部長 様

申出日	令和 年 月 日
申出人	所属所名
	TEL (内線)
	氏名 ⑩

地方職員共済組合貸付規程第11条の3に基づき、借受中の貸付金について、次のとおり、随時弁済したいので申し出ます。

1 随時弁済の内容

貸付の種別	<input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 住宅 <input type="checkbox"/> 在宅介護 <input type="checkbox"/> 一般災害 <input type="checkbox"/> 住宅災害 <input type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 入学 <input type="checkbox"/> 修学 <input type="checkbox"/> 結婚 <input type="checkbox"/> 葬祭
弁済予定月	令和 年 月
弁済方法	<input type="checkbox"/> ①全額 円を弁済します。 <input type="checkbox"/> ②一部として, 円を弁済し、今後の弁済方法を次のとおりとします。

(注)・一部弁済額は、住宅・在宅介護・住宅災害は30万円以上、その他は10万円以上です。(全額弁済は制限なし)。
・給料からの弁済に併用して、期末勤勉手当から弁済している場合、11月の随時弁済はできません。

2 今後の弁済方法

<input type="checkbox"/> ①現在の弁済額(元利均等弁済)または弁済元金額(元金均等弁済)と、同額程度を弁済します。(同額でない場合は、直近下位となる弁済額または弁済元金額とします。)
<input type="checkbox"/> ②弁済回数、弁済額または弁済元金額を再設定し、次のとおり弁済します。

組合員氏名	貸付	貸付番号	区分
職員番号	種別		

← 組合員氏名・職員番号はゴム印を使用してください。

(○ 区分
1 : 一部弁済
0 : 一括弁済)

3 弁済方法の設定

項目	未弁済元利金 (令和 年 月 現在) (円)	今回、随時弁済する額 (円)	貸付金残額 (円)	今後の 弁 済 回 数	今後の1回当たり 弁済額・弁済元金額 (円)
給与弁済					
期末勤勉手当弁済					
期末勤勉手当弁済 経過利息					
合計額					

団信処理欄

記載上の注意

- ・1及び2の太枠内の該当欄について、□に印をつけ、記入または押印し、随時弁済を行う月までに必ず提出してください。
- ・3「弁済方法の設定」については、裏面を参照してください。

○弁済方法の設定の書き方

項目	未弁済元利金 (令和 年 月現在)	今回, 随時弁済する額	貸付金残額	今後の 弁 済	今後の1回当たり 弁済額・弁済元金額
	A (円)	B (円)	C (円)	D 回 数	E (円)
給与弁済	①	⑥	⑨	⑫	⑭
期末勤勉手当弁済	②	⑦	⑩	⑬	⑮
期末勤勉手当弁済	③				
経 過 利 息	④				
合 計 額	⑤	⑧	⑪		

(注) 期末勤勉手当弁済の欄は, 給料弁済に併用して, 期末勤勉手当弁済を行う場合, 記載する欄です。

○現在, 選択している弁済方法により, 今後の弁済方法の設定方法が異なります。
まず, 現在, 選択している弁済方法を共済組合貸付担当にご確認ください。

ケース 1

現在, 選択している弁済方法	○元利均等弁済 ○平成 14 年 2 月以後貸付の元金均等弁済及び平成 14 年 1 月以前貸付で, 平成 14 年 2 月以降, 新たに弁済方法を設定し, 1 回以上, 一部弁済を行った元金均等弁済						
A	未弁済元利金を共済組合貸付担当に問い合わせ, 記入してください。 なお, 給料からの弁済に併用して, 期末勤勉手当からも弁済している場合, 期末勤勉手当支給月の 6 月及び 12 月以外の随時弁済では, 期末勤勉手当弁済分元金の経過利息④が生じます。 【算式】 ⑤=①+② ②=③+④						
B	今回, 随時弁済する額を記入します。⑧額は, 申出書の「1 随時弁済の内容」記載の額と同一の額です。 【算式】 ⑧=⑥+⑦ なお, 次の条件を満たしてください。 ・住宅・在宅介護・住宅災害の場合 ⑧≥300, 000 円 その他の場合 ⑧≥100, 000 円 ・(⑦-④)≥⑥						
C	次により, 貸付金残高を計算し, 記入します。 【算式】 ⑨=①-⑥ ⑩=②-⑦ ⑪=⑤-⑧ (⑪=⑨+⑩)						
D	未弁済回数を共済組合貸付担当に問い合わせ, その回数以内で, 今後の弁済回数(整数)を設定してください。但し, ⑬≤⑫÷6 回としてください。						
E	今後の 1 回当たり弁済額・弁済元金額を次により計算し, 記入します。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>【元利均等弁済・弁済額(元利金)】</td> <td>【元金均等弁済・弁済元金額】</td> </tr> <tr> <td>【算式】 ⑭=⑨×(⑫に該当する給料弁済分賦金率)</td> <td>【算式】 ⑭=⑨÷⑫</td> </tr> <tr> <td>⑮=⑩×(⑬に該当する期末勤勉手当分賦金率)</td> <td>⑮=⑩÷⑬</td> </tr> </table> (注) ・賦金率は, 地方職員共済組合貸付賦金率表から該当する腑金率を選択してください。 ・ともに, ⑭⑮は, 円未満を切捨てます。(最終回で調整します。)	【元利均等弁済・弁済額(元利金)】	【元金均等弁済・弁済元金額】	【算式】 ⑭=⑨×(⑫に該当する給料弁済分賦金率)	【算式】 ⑭=⑨÷⑫	⑮=⑩×(⑬に該当する期末勤勉手当分賦金率)	⑮=⑩÷⑬
【元利均等弁済・弁済額(元利金)】	【元金均等弁済・弁済元金額】						
【算式】 ⑭=⑨×(⑫に該当する給料弁済分賦金率)	【算式】 ⑭=⑨÷⑫						
⑮=⑩×(⑬に該当する期末勤勉手当分賦金率)	⑮=⑩÷⑬						

ケース 2

現在, 選択している弁済方法	○平成 14 年 1 月以前貸付で, 平成 14 年 2 月以降, 新たに弁済方法を設定した一部弁済を行ってない元金均等弁済
A	未弁済元金⑤を共済組合貸付担当に問い合わせ, 記入してください。
B	今回, 随時弁済する額⑧を記入します。⑧額は, 申出書の「1 随時弁済の内容」記載の額と同一の額です。但し, 住宅・在宅介護・住宅災害の場合 ⑧≥300, 000 円 その他の場合 ⑧≥100, 000 円 です。
C	次により, 貸付金残高を計算し, 記入します。 【算式】 ⑪=⑤-⑧ 新たに, ⑪=⑨+⑩となる額を設定します。但し, ⑨≥⑩。⑩はゼロでも可です。
D	未弁済回数を共済組合貸付担当に問い合わせ, その回数以内で, 今後の弁済回数(整数)を設定してください。但し, ⑬≤⑫÷6 回としてください。
E	今後の 1 回当たり弁済元金額を次により計算し, 記入します。 【算式】 ⑭=⑨÷⑫ ⑮=⑩÷⑬ ⑭⑮は, 円未満を切捨てます。(最終回で調整します。)